

## 第4回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 水環境WG 議事概要

- 
- 【開催日時】 平成20年 9月24日(水) 15:00～16:00
- 【議題】 ・東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について  
・その他
- 【出席者】 小倉座長、清水委員、古川委員、千葉県、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、財団法人港湾空間高度化環境研究センター
- 【開催場所】 東京空港整備事務所 分庁舎 5階A会議室
- 【資料】 資料-1 環境監視結果〈水環境〉の概要について  
資料-2-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果報告〈水環境〉  
資料-2-2 同(資料編)  
資料-3 「観測櫓付着生物調査」の状況報告
- 

### 1. 開会挨拶

### 2. 座長挨拶

### 3. 議 事

#### 3-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について

資料-1～2、参考資料にて、工事の進捗状況、水環境の監視結果報告について説明を行った。

委員：濁りが出た時に植物プランクトンの影響ではないかということで、SSとVSSを比較した検討をされているが、VSSが非常に小さいということは殆んど燃えてしまったということなのか。

事務局：VSS(燃えた減量分)が小さいということで燃えカスが残っていると考えて頂きたい。

委員：冬季下層の高濁度の原因と考えられる植物プランクトンは、沈降中のものなのか、それとも、一度海底に沈降し、巻き上がったもののどちらなのか。後者の場合、流向から考えれば埋立が進む工事区域近隣の方が高い値を示すはずだが、そのような結果は出ていない。なぜ、遠い方が局所的に高い値を示したのかについては、継続的な調査が必要である。

事務局：資料2-1 p.27～31の濁度、SS、クロロフィルaの結果を見ると、必ずしも上層

## 第4回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 水環境WG 議事概要

と中層で高い値が見られず、下層で高い値が出ているという状況である。沈降中のものなのか、巻き上がりのものなのかは現状の監視結果からは判断できていない。

委員：VSSの解析結果を見ると、一度海底に沈降し、死んでから少し時間の経った底層の植物プランクトンの殻の巻き上がったものを観測している可能性も考えられる。

委員：再懸濁だとした場合、下層の水質データを見ると st. や より南側にある地点では濁りが観測されているが、st.18 のように再拡張部の沖側では濁りがあまり出ていない。濁り監視の面から見ると全く問題ないが、出水時の流れで巻き上がりが発生するでもある。まだ、一季のデータなので、そのような可能性も考えられるという指摘になるが、こういったことにも考慮して頂きたい。

委員：資料2-1に陸生動植物の結果が入っているが、資料2-2には結果が入っていない。

事務局：追加する。

委員：前回の水環境WGの時に現地を見せて頂いて、ほとんど濁りの無い状況を確認した。もともと工事による発生量が非常に小さいのではないかと感じている。しかし、工事による影響は無くても、周辺の環境が変化してくる場合、工事による濁りの発生量のようなものをどこかでおさえておかないと、周辺環境の変化に対する考察がしにくくなっていくのではないかと感じる。考察の方法は難しいと思うが。

事務局：工事は、トレミー管を使用する等の濁りが極力出ない方法をとっている。前回WGでは、工事施工箇所のごく周辺の状況が目視でも良いので把握できるれば、とのご意見を頂いている。事前の予測では建設機械ごとの発生原単位を用いて行っており、その原単位に相当するようなものが、実際現地でどのくらい出ているのかという取りまとめがうまくできれば良いが、発生量全体をおさえることは、環境監視計画の調査方法と異なり、研究的な取り組みとなってしまうのでここでは困難であると考えている。

委員：予測した発生量と、定性的なデータを比較して予測より発生量は少ないということが曖昧にでも裏付けられれば良いと思うのだが。

委員：そのような対応は、保全措置の実態をもう少し定量的におさえられないかというポイントのご指摘であり、簡単ではないと思う。

## 第4回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 水環境WG 議 事 概 要

委員 : 資料 2 - 1 p.3 の S S と多項目水質計による濁度の関係式と資料 2 - 2 p.11 の S S と濁度の関係式が異なっているが、実際はどの関係式から S S を求めているのか。

事務局 : 日々の濁り監視の管理目標値設定には、当初設定した資料 2 - 1 p.3 の換算式を用いている。資料 2 - 2 p.11 のグラフに記載の相関式は、実際の現地観測結果の関係を示している。実際現地で観測した結果では、換算係数が低く設定されてしまうので、当初から設定している換算係数  $y = 1.2x$  の厳しい値で監視している。資料 2 - 2 p.11 のグラフは参考資料として記載している。

注釈で説明を追加する。

### 3 - 2 「観測櫓付着生物調査」の状況報告

資料- 3 にて、観測櫓付着生物調査の速報、状況報告を行った。

事務局 : 別途実施されている羽田周辺水域環境調査研究委員会において、本調査で得られるデータに基づいた調査研究が今後行われる予定で、事務所で定期的にこういった観測を行い、データを提供していくということで進めている。

### 3 - 2 その他

資料- 4 にて、今後の予定について説明を行った。

以 上 (終了)